

第4期『耕人塾』での人材育成と地域貢献

木村 民男^{*}・田中 秀典^{*}

Cultivation of Human Resources and Regional Contribution by the 4th Period of “Kojin-jyuku” Activities

Tamio KIMURA^{*} and Hidenori TANAKA^{*}

^{*}Department of Human Education, Faculty of Human Studies, Ishinomaki Senshu
University, Ishinomaki 986-858

I はじめに

平成24年度、石巻地域の中・高校生の「人間力」を磨き、地域や社会に貢献する人材を育成し、併せて大学生や市民を巻き込んだ学びの場とすることを目的として開設した『耕人塾』も今年度で第4期を迎える。第3期のテーマ「世界に誇れる石巻をつくろう」では、石巻のもっている良さを探し、それを外に向かってアピールする中で、石巻の良さをつくって行こうとする取り組みであった。具体的には、石巻川開き祭り紹介のリーフレットを作成して配ったり、商店街の手作りマップを作成して県内外から訪れた観光客に石巻の良さをPRしたり、宿泊研修では、石巻の魅力を発信していく映像コンテストの講演会を開催した。そのような取り組みの中で、石巻の良さを再発見したり、発信したりすることができたことは大きな成果であった。

今年度は、その成果を踏まえて、「世界に誇れる石巻にしよう」とし、現状の石巻をさらに良くするための活動を中心に取り組んだ。具体的には、班ごとのあいさつ運動やゴミ拾い活動に加えて、全体でのゴミ拾い活動にも取り組んだ。その結果、塾生のみならず、友人や家族などの参加が増え、『耕人塾』で取り組んでいる「挨拶・清掃・ゴミ拾い」の活動が地域に広がりつつある。その活動を報告したい。

II 実施要項

1 趣旨

『耕人塾』は、石巻地域の中・高校生の「人間力」を磨き、地域や社会に貢献する人材を育成し、併せて大学生や市民を巻き込んだ学びの場とすることを目的とする。今年度は、石巻専修大学、宮城県教育委員会、石巻市教育委員会、東松島市教育委員会、女川町教育委員会の後援をいただき、塾生の主体性と実践を重視し、更に活動を充実させる。

2 指導指針

- (1) 社会貢献への高い「志」を持たせ、討論や実践活動を通して、「人間力」を向上させる。
- (2) 「文・武・楽三道（学問・武道・スポーツや趣味）」の体験を通して、人間的な幅と深さを身に付けさせる。
- (3) 日本の伝統文化を体験させ、自然や郷土を愛する心を育て、礼儀作法を身に付けさせる。

3 活動方針

- (1) 高い志を持ったリーダー育成を目指す。
- (2) 地域に学び、地域や社会に貢献する人材育成を目指す。
- (3) 塾生の主体的な考えを生かした実践活動を取り入れる。
- (4) 中・高校生のみならず大学生や市民の学びの場とする。

4 活動内容

- (1) 中・高校生及び大学生を5～6人の班に分け、指導者も塾生と一緒に活動する。
- (2) 班ごとのリーダー（班長）を選出し、班活動を重視する。
- (3) 年間11回の活動とし、課題解決の活動や奉仕活動、講話研修等を行い、発表の場を設ける。
- (4) 8月に1泊2日の宿泊研修を実施し、自然体験やレクリエーションなどを取り入れる。
- (5) 塾生の主体性・自主性を重視し、体験等も取り入れて達成感のある活動にする。

5 日時・場所

- (1) 毎月1回（第3土曜日）18：30～20：30実施を基本とする。日程等は別に定める。
- (2) 研修場所は主として石巻専修大学とする。

第4期『耕人塾』での人材育成と地域貢献

(3) 宿泊研修やイベント参加等は別途計画する。

6 対象及び定員

- (1) リーダーとしての「志」を持ち、参加意欲の高い中・高校生とする。
- (2) 塾生の定員は30名程度とする。
- (3) 大学生や市民の参加も随時歓迎する。

7 その他

- (1) 服装は場や活動内容に相応しい服装とし、学習用具は各自持参する。
- (2) 出欠は各自の判断とするが、欠席の場合は必ず班長へ連絡する。
- (3) 通塾等は保護者の責任で送迎する。
- (4) 受講料は無料とする。

Ⅲ 年間活動計画

回	月/日 (曜)	主 活 動	活 動 内 容	担当者等
1	6/20 (土)	【『耕人塾』開塾式】 ・テーマ「世界に誇れる石巻地域にしよう（あいさつ・清掃・ゴミ拾い）」	・塾長あいさつ ・自己紹介、活動計画、約束の確認、班分け ・班長選出、役割分担 ・班ごとの実践活動計画	指導委員 長他全員
2	7月	【試し活動】	・1班：7/4（土）7：00 石巻駅～立町ゴミ拾い ・2班：7/12（日）6：00 石巻駅～立町ゴミ拾い ・3班：7/5（日）8：00 石巻駅～立町ゴミ拾い ・4班：7/5（日）13：00 開成団地周辺ゴミ拾い ・5班：7/5（日）9：00 駅前北通りゴミ拾い	
3	7/18 (土)	【試し活動中間発表】	・班活動「試し実践活動」を行っての成果と課題 ・班交流活動、班別活動、全体学習 ・宿泊研修について	各班の主 担当中心
4	8月	【班ごとの実践活動】	・1班：8/1（土）・8/8（土）7：00 石巻駅周辺ゴミ拾い ・2班：8/11（火）10：00 石巻駅構内トイレ掃除 ・3班：8/8（土）7：30 石巻駅周辺ゴミ拾い ・4班：8/2（日）13：00 開成団地周辺ゴミ拾い ・5班：8/2（日）8：00 立町～萬画館ゴミ拾い、8/8（土）3班 と合同	各班の主 担当中心 に 自主活動
5	8/17 (月)	【宿泊研修】9：00 集合 ・班別研修、体験学習 ・レクリエーション、奉仕活動 会場：（コロボックルハウス）	・研修①「世界に誇れるあいさつ」（集団討議） ・研修②「班別創作ダンス」（表現活動） ・研修③「カレーライス」（創作と協力性） ・研修④「キャンプファイヤー」（個の表現）	指導委員 長他全員
6	8/18 (火)	【宿泊研修】11：00 解散 ・旭山から朝日を拝もう ・講話、体験学習 会場：（コロボックルハウス）	・研修⑤「旭山登山」（自然の偉大さに触れる） ・研修⑥「究極の清掃」（奉仕活動） ・研修⑦「座禅・礼法体験」（伝統文化体験） ・研修⑧「活動のまとめ」（振り返り活動）	指導委員 長他全員
7	9/19 (土)	【自己を見つめよう】 ・「p4c：ビーフォーシー」（子どもの哲学）講師：宮教大特任教授 庄子修氏・堀越清治氏	・糸でボールを作りながら、それを持った人が自己紹介や自分の考えを発表し合う。	担当者
8	10月	【全体での実践活動】 ・3回中希望する1回に参加 ・家族や友人への呼びかけ	・10/3（土）7：30～8：00 石巻駅前～立町ゴミ拾い ・10/10（土）7：30～8：00 矢本駅前付近ゴミ拾い ・10/17（土）7：30～8：00 女川駅前付近ゴミ拾い	各担当者
9	10/17 (土)	【講話「国際理解」】 「外国人が見た日本」 ・パネラー 村岡 太（石巻市教育委員会指導主事）	パネルディスカッション パネリスト：リチャード・ハルバーシュタット氏（石巻市復興まちづくり情報交流館中央館館長）、季東勲（イ・ドンウン）氏（石巻専修大学経営学部准教授）、高橋リヤネット氏（石巻市小学校外国語活動指導補助員）	担当者
10	11/14 (土)	【体験「日本の伝統文化」】 「おもてなし」とは 講師：表千家教授 石田邦子氏	・茶道体験 ・班別討議・全体学習	担当者
11	12/12 (土)	【平成27年度のまとめと発表】 ・平成27年度のまとめと発表 ・第4期修了証授与 ・写真撮影	第4期耕人塾を振り返って ◆耕人塾で得たもの ・班活動を通して・講師の話を開いて ◆耕人塾で自分自身が成長した点。 耕人塾が自分自身の成長にどうつながったか。 ◆耕人塾の活動を通して考えた「世界に誇れる石巻地域」の姿	指導委員 長他全員

Ⅳ 塾生及び指導委員等

- ・塾生：31名（高校生12名、中学生19名）、指導委員：24名、運営委員：15名、指導補助員（石巻専修大学）11名、協力者：10名
- ・合計90名

Ⅴ 研修及び実践活動

1 第1回研修会（開塾式）

- (1) 日時：6月20日（土）
18：30～20：30
- (2) 場所：石巻専修大学 2205 教室
- (3) 活動内容

- ① 開会の挨拶及び趣旨説明（木村塾長）

・「自分の人間力を磨いて、石巻をよりよい街にしよう！」そのために「高い志」と「感謝の心」をもち、「人間力」を磨いて人間的な幅を身に付けよう。

・世界に誇れる石巻にするために「あいさつ・清掃・ゴミ拾い」を実践していこう。

- ② 活動計画とテーマ学習の進め方、心構え（平塚指導委員長）

・昨年度の実践活動から、「石巻に生きていること」「ここにいる意味」を考えてほしいと投げかけ、「当たり前」のことを素晴らしくやる。自ら考え仲間と知恵を絞り、工夫して他ではまねのできないあいさつをする。見えないところを掃除するなど心を込めてすることを考えよう。」と心構えを強調した。

- ③ 出合いのつどい（稲辺指導副委員長）

・ゲーム形式で行われた塾生同士や指導委員との自己紹介で緊張した表情も緩み場が和んだ。

・「おしゃれ」と「身だしなみ」の違いについて

- ④ 話し合い（シンキングタイム）

・素晴らしいあいさつ・清掃・ゴミ拾いとは？

- ⑤ 班別活動

・班としての考えまとめる。

- ⑥ 全体学習



2 第2回研修会（各班の試し活動）

(1) 各班の活動計画

班	日 時	場 所	活 動 内 容
1班	7/4（土）7：00～8：00	石巻駅～立町	ゴミ拾い活動
2班	7/12（日）6：00～7：00	石巻駅周辺	ゴミ拾い活動
3班	7/5（日）8：00～9：00	石巻駅～立町	ゴミ拾い活動
4班	7/5（日）13：00～14：00	開成団地周辺	ゴミ拾い活動
5班	7/5（日）9：00～10：00	駅前北通り	ゴミ拾い活動

(2) 活動内容（3班の例）

① ねらい

今年度は、「世界に誇れる石巻地域にしよう（あいさつ・清掃・ゴミ拾い）」というねらいの下、活動が始まった。より多くの人が通る場所を綺麗にしたいということで、3班は石巻駅をスタートして立町周辺のゴミ拾い活動を行った。「世界に誇れる綺麗な街」を、石巻を訪れた方々に発信するという目的で活動した。

② 活動内容

石巻駅をスタートし、立町周辺を中心にゴミ拾い活動を行った。駅周辺はゴミの量は少なかったが、立町（3班は七十七銀行側を中心に行った）に入ると一気にゴミの量が増えた。中でもタバコの吸殻と空き缶の量が突出していた。また、立町の中にも東日本大震災の傷跡が鮮明に残っている場所が何箇所もあり、その更地にゴミを捨てていく人が多く、みんなで細部までゴミ拾い活動を行った。側溝の奥にゴミがたまっている光景を目の当たりにした塾生は、火バサミを使って奥まで手を伸ばし、時間が経つのも忘れてゴミを拾った。中には、傘やマンホールの蓋なども落ちており、自分たちの目を疑った。ゴミ拾い活動を通して、「マナーを守って生活していくことの大切さ」も学んだ取組になった。ゴミ拾いを始めると時間が過ぎるのはあっという間で、見

第4期『耕人塾』での人材育成と地域貢献

見るうちにゴミ袋はいっぱいになり、終了予定時刻になった。活動を始めた頃は、黙々とゴミを拾うだけだったが、時間が経つにつれ、すれ違った方とあいさつを交わしながらの取組となった。集団でゴミ拾い活動に取り組む活動を今回行った。今後は、この取組を個でも行えるようにしていきたい。

③ 成果

- ・大通りは比較的ゴミが少なかったが、脇道に入るとゴミの量が増えることに気付くことができた。
- ・初めはゴミ拾いのみに取り組んでいたが、途中からすれ違った人たちや地域の方々に率先してあいさつをすることができた。
- ・側溝や用水路の奥の方までゴミを拾っている塾生の姿を見た他の塾生が別の場所と同じように率先してゴミ拾い活動に取り組んでいた。仲間の良さを吸収しようとする姿が見られた。

③ 課題

- ・大通りよりも路地の方がゴミの量が圧倒的に多かった。このことからゴミを捨てる人は少なからず周りの人の目を気にしているのではないかとということが分かった。どのような状況でもゴミは捨ててはいけないという風土作りが必要である。



3 第3回研修会（各班の試し活動中間発表会）

(1) 日時：7月18日（土）18：30～20：30

(2) 場所：石巻専修大学 2205 教室

(3) 活動内容

- ① 班ごとの試し活動を実践しての成果と課題について、スライド等を使って発表した。
- ② それぞれの班のよかったところを共有し、各班の交流を図った。
- ③ 各班の反省を生かして、次回の計画を立てた。
- ④ 各班の計画を発表し合い、全体でそれぞれの班の取り組みを共有した。
- ⑤ 宿泊研修についての事前指導をした。

4 第4回研修会（各班の実践活動）

(1) 各班の活動計画

班	日 時	場 所	活 動 内 容
1班	8/1（土）、8/6（土）7：00～8：00	石巻駅周辺	ゴミ拾い活動
2班	8/11（火）10：00～11：30	石巻駅構内	トイレ掃除
3班	8/8（土）7：30～9：00	石巻駅周辺	ゴミ拾い活動
4班	8/2（日）13：00～14：00	開成団地周辺	ゴミ拾い活動
5班	8/2（日）8：00～9：00	立町～漫画館	ゴミ拾い活動

(2) 活動内容 (3 班の例)

① ねらい

前は、立町商店街の人通りの多い所を中心にゴミ拾い活動を行った。後半、路地に入ってみると空き地や側溝などにゴミがたくさんあったので、2 回目はあまりゴミ拾い活動がされていないような箇所を綺麗にしようというコンセプトの下で活動した。

② 活動内容

今回も石巻駅をスタートし、ゴミ拾い活動を行った。今年もボランティアの方々が、川開き祭りの翌朝にゴミ拾い活動を行ってくださったので、石巻駅周辺にはゴミの量が少なかった。しかし、大通りから一歩脇道に入ってみると様子は一変した。雨が降った後、晴れて必要のなくなった傘や川開き祭りの際に焼き鳥や焼きそばなどのバックを止めていた輪ゴムがたくさん落ちていた。また、どこのゴミ拾い活動を行っても圧倒的に多いのが大人が吸ったタバコの吸殻であることが分かった。地域を綺麗にするには大人のマナーの向上が必要不可欠なのではないかと感じた。さらに、ビルの階段下にたまっているゴミや側溝にヘドロまみれになって異臭を放っているゴミも塾生は嫌な顔一つせずに拾っていた。

③ 活動を通して感じたこと

ゴミ拾い活動を通して、ゴミが落ちていない綺麗な街にすることは回数を重ねることによって可能だと考えられる。しかし、今回の活動を通して路上に飲み物や食べ物の汁などを捨てて路面が汚くなってしまっている箇所があった。このような場所をどのようにしていかかが大きな課題なのではないかと考えられる。

(3) 各班の活動の様子



5 第5、6回研修会（宿泊研修）

(1) 日時：8月17日（月）・18日（火）

(2) 場所：コロボックルハウス

(3) 活動内容

① チーム力を試す

フラフープを左右二本の指で支える。指は離さない。みんなで協力して上下運動に挑戦してみよう。さらに、チームで手をつないだまま、一人ずつ輪をくぐってみる。その後、いつもの班と違う構成になっているので、最近会った楽しいことを交えて自己紹介をする。

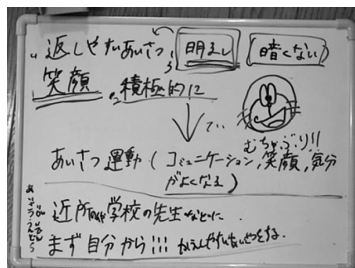
② 挨拶の基本

挨拶は、いろいろな作法があり、決まり事もある。正面を向く、顎を引く、肩の力を抜くなど資料を見ながら説明し、実際にやってみる。返事で、「はい」というのは、コミュニケーションの一步で、存在を認めるということです。「おはようございます」と言葉を言ってから、頭を下げる。そのあとの数秒の静止の時間。表情・声・姿勢・動作、それぞれが大切。その後、「あ・い・う・え・お」の発音練習。息をためる・真中に集める、気合を入れて、隣の人にテンポよく、もらった人は返しても次の人に渡してもいい。挨拶の実習資料に沿ってチームで役割を決めて練習する。みんなで、声を揃えて、照れずにチーム力を発揮する。

③ 創作ダンスを踊ろう

④ 「p4c（子供の哲学）」毛糸を巻きながらの自己紹介をし、心の交流を図った。

<活動の様子>



⑤ 旭山登山（雨天のため中止）

起床は6時。ラジオ体操を行い、一時間かけて清掃を行う。朝食は、仕出し屋からの弁当配達は無理とのことで、指導委員が手分けしてコンビニで弁当を調達。去年は、前日残ったカレーライスを朝食にとったが、今年度は前日に完食。

ライオンズクラブより、耕人塾に助成金が贈られたのを機会に、運営委員でもある宇角さんにお話を聞く。ライオンズの歴史・頭文字の由来・行っている主な活動を説明していただいた。青少年プログラムとしては、交換留学生制度もある。石巻で、ホームステイを行っている。献血・失明者・障害者支援など幅広く行っている。人として、いくらかでも支援の手を差し伸べる、そういう気持ちを育みながら、誇らしげにやるのではなく、自然体での支援をこれからも続けたいと、普段なかなか聞けない貴重なお話をいただいた。



⑥ 座禅（講師：曹洞宗海藏庵住職佐竹泰生氏、曹洞宗長泉寺住職花山智憲氏）

座禅を広めた人は、お釈迦様である。断食・土や水の中での修行を行い、苦行をやめて菩提樹のもとで真実の教えを得ようと悟りを開くまで座禅を組まれた。悟りを開いた後、その教えは、インド・中国を通して、達磨というお坊さんによって日本に伝えられた。日本に伝わり、臨済宗・曹洞宗に継承された。臨済宗は、和尚さんから問題を出されて、わかったらわかりましたと問答をする。考えて座禅を組む。一休さんなどは有名です。何も考えないで座禅ができれば、それが修行、悟りである。これからやるのは曹洞宗の座禅です。座禅中に眠くなったり、姿勢が悪かったり、心が落ち着かない時は、警策で肩を打ってもらいます。自分から警策を求める場合と、警策をもつ役の人（直堂）が判断して打つ場合があります。座禅をはじめると警策を打たれた音が凛として会場に響いた。塾生・指導委員等、本物に触れる機会となった。通常は線香が燃え尽きるまでの40分間行われるが本日は短縮して行われた。（※話された内容に調べた内容を補足した箇所があります）

【坐位につく】

坐蒲（ざぶ）を尻の下に敷き、尻と両膝、三か所を支えて座る。曹洞宗の坐禅は壁に向かって坐る。

【脚のくみ方】

坐蒲（ざぶ）にあわせてお辞儀をし、時計回りに90度回って尻をのせる。「結跏趺坐」は、右の足を左の太ももの上にのせ、次に左の足を右の太ももの上にのせる。「半跏趺坐」は左の足を、右の太ももの上にのせるだけである。

【法界定印】

背筋を伸ばし右手の上に左手をのせて卵（きれいな楕円形）をつくる。親指同士をつけ、お腹の上において座禅を組む。

【欠気一息・左右揺振】

手を解き、体を大きく揺らし、だんだん小さくしていく。大きく深呼吸して、口を閉じ顎を引く。手を組み直して、みんなで座禅を始める。



⑦ 全体学習

- ・伝えるべき時に、言葉にして伝える。
- ・失敗を学びとらえる。失敗しないことではなく、どうとらえて次に生かすかということが大切である。
- ・頼まれごととは試されごと。頼んだ人が思っている以上に返す。頼まれたことをチャンスととらえよう。
- ・いろいろな気づきや体験やかかわりを通して、自分自身の気づきを付箋に書く。→班で模造紙に貼っていく



7 第7回研修会 (P4C「子どもの哲学」)

<省略>

8 第8回研修会 (全体での実践活動)

(1) ねらい

大テーマ「世界に誇れる石巻地域にしよう!」～世界に誇れる『あいさつ・清掃・ゴミ拾い』を目指して～に少しでも迫るため、石巻市ばかりではなく、石巻地域を意識して“東松島市”“女川町”においても清掃活動に挑戦した。

(2) 石巻駅前ゴミ拾い (10月3日(土) 7:30～8:45)

(3) 矢本駅前 (10月10日(土) 7:30～8:45)

(4) 女川駅前 (10月17日(土) 7:30～8:45)

(5) 活動の様子



9 第9回研修会

- (1) 日時：10月17日（土）18：30～20：30
- (2) 場所：石巻専修大学 2205 教室
- (3) テーマ：「国際理解：パネルディスカッション「外国人から見た日本（石巻）」
- (4) 活動内容

① 海外研修報告＜塾生：高橋倫平君（好文館高3年）、若生智香さん（稲井中3年）＞

9月1日から10日までの「セントルイス・石巻ともだちプログラム交流事業」に参加してそれぞれのホストファミリー宅にホームステイ。街のシンボルであるゲートウェイアーチ、野球観戦、公立・私立の高校視察などをした。ボタニカルガーデンで開催された「ジャパニーズフェスティバル」では、日本食や日本文化を体験し、大漁踊りを披露した。

＜学んだこと＞

- ・「質問をしないのはその人の話を聞いていないのに等しい、失礼である。」という米国人の考え方。口に出してみることの重要性。質問は尋ねることだけではなく、確認する・具体的に教えてほしいときなど、引き出したいときでもいいことに気付かされた。
- ・西部開拓などの様々な歴史がつまっているゲートウェイアーチの歴史について学んだ。

＜石巻にどう貢献する＞

- ・未来の糧になったと感じている私たち同様、行ってみたいと思う人を増やすこと。
- ・国際社会で、視野を広げた活動をする。

＜一番印象的だったこと＞

- ・震災のプレゼンテーションを、真剣に聞き入り興味・関心を示してくれるとともに他人である自分たちを家族のように心配し見守ってくれていること。
- ・セントルイス日本語教室の同世代の人との交流を深めることができたこと。

＜大変だった経験＞

- ・室内が寒いと感じるほど冷房が効いていること。米国人の頑丈な体に圧倒されたこと。
- ・アメリカ人は見知らぬ人にも気軽に声をかけること。

＜米国人に知ってほしい日本・石巻の文化・習慣＞

- ・何事にも感謝の念を忘れない神仏融合の考え方。
- ・「いただきます」「ごちそうさま」という、食べ物に感謝する日本の素晴らしい文化。

② パネルディスカッション「外国人から見た日本（石巻）」

＜パネリスト＞

- ・リチャード・ハルバーシュタット氏（石巻市復興まちづくり情報交流館中央館館長）
- ・季 東勲（イ・ドンウン）氏（石巻専修大学経営学部准教授）
- ・高橋リヤネット氏（石巻市小学校外国語活動指導補助員）

＜コーディネーター＞

- ・村岡 太（石巻市教育委員会指導主事）

- パネラー村岡太先生は、「日本の食について」⇒「日本をどう見ているか」⇒「日本の子どもをどう思っているか」⇒「みんなからの質問」という順序で、面白い質問を問いかけ、石巻の方言も交えてとても楽しい雰囲気を作り出している。

＜日本の食について＞

- ・英国では、レトルトでも1000円とか外食が高く、食べものの量の多さに唖然としてしまう。食のバランスがよくない。日本の食事は、一人分が程よく、手ごろな価格で、どこの食堂もおいしい。
- ・日本の料理は薄味で健康に良い。今では、韓国の食事が腹痛の原因に？石巻のお勧めはやはりお魚、さんまのお刺身は特においしい。
- ・フィリピンでは味噌汁はない。一年中夏で刺身などのなま物は食べられない。でも、果物はとってもおいしい。



<日本をどう見ているか>

- ・美しい自然がたくさんある。リアス式海岸・山形には羽黒山・京都も素晴らしい。他の国が汚いというわけではないが…。イギリスよりきれいです。でも、タバコとかのゴミが多い気がする。
- ・日本には四季を通じてたくさんのイベントがある。日本のお酒大好きです。
- ・「匠」という言葉があるように仕事をコツコツとこなす。私たちが社会に貢献することも大事だが、あわせて日本の文化を伝えていってほしい。漫画も日本の大事な文化の一部で、学べることもあります。韓国は、伝統文化が薄らいできている。



<日本の子どもをどう思っているか>

- ・日本の子どもを漢字一文字で表すと「静」。善し悪しはあるが、もう少し活発になってほしい。小学校までは元気。でも大きくなるにつれて、自分の意見を口に出さなくなる。間違いは自分のためになることもあると考えてほしい。
- ・すばらしいけれど大きくなっていくと「あなたたちそれでいいの?」と思う時がある。みんなに漢字一文字をつけると「叶」。自分とちょっと違った人がいても、「気にするな!」。相手の立場になって考える。夢もない人が他人の夢をからかうのは馬鹿げている。達成させるのは、「辛(つらい)」➡「幸(しやわせ)」。何度も立ち上がることは、辛いことです。一画足します。それは誰かを助ける手です。思いやりを持ってください。夢を口に出して言えるようにしてください。どんな人であれ、平等なのは、24時間あるということ。
- ・日本の子どもを漢字一文字ではなく英語で表現すると「Lucky」。フィリピンは、頭がよくてもお金がないと大学に入れない。一日、500円で父も母も働く。子どもは一人とは限らないし、学校にお弁当を持っていかなくてはならない。日本は牛乳も飲める。フィリピンは金持ちしか飲めない。プールの時間もある。お母さんが、子どもに、「お願いだから、学校に行って!」。フィリピンでは、教科書がない。学校に行かないからバカじゃない。お金がないから行かないだけ。6年生で小学校卒業できるけれど、フィリピンは頭がよくないと卒業できない。日本の子どもは甘いかもしれない。



10 第10回研修会(日本の伝統文化:「茶道」)

- (1) 日時: 11月14日(土) 18:30~20:30
- (2) 場所: 石巻専修大学5号館学生ホール
- (3) テーマ: 『おもてなし』とは
- (4) 講師: 石田邦子氏(表千家教授)

<茶道のお点前披露>

塾生はじめ参観者すべてが、静かに見入っていた。先生のお話も静かに一言一言を大切に聞き入った。「お先に頂戴いたします」「お点前頂戴いたします」「もう一服いかがでしょうか」「十分頂戴いたしました」といった言葉を復唱するときも、全員大きな声で揃えて復唱した。飲み終えたときに口をつけたところを指でふき、懐紙で指をふくことや畳に座るときの位置、1畳を何歩で歩くかといった動作の意味や仕方についても学んだ。



<茶道の体験>

茶道体験は、講師の先生に一通りの説明をしていただいた後はじめられた。実際に、お茶を体験する場面では、教えていただいたことに気を付けて、一つ一つの動作に心を込めて行った。みんな気を引き締めて緊張しているように見えた。

<講話：「おもてなし」とは>

お茶の全国大会で宮崎に行ってまいりました。花の色も緑もきれい。野球のキャンプなど、ほかに来ている方も多い。神話の国「高千穂」に行ってみたくて、バスで四時間半かけて山深いところへ向かっていく。神話の国らしくしめ縄が一年中飾ってある。茶葉も違う。三日間ホテル。四日目、体にやさしい日本人の食事はこういうものかというものに会った。うれしかった。食事の後、竹の筒に手紙を結び、お夜食にどうぞと蒸しパンが振る舞われる。みんな手作り。お米も梅も油味噌ももたせてくれる。感激しました。

みなさんが考えるおもてなしとは？お茶を差し上げました。お点前を見せました。正面で90度にずらすというお点前は、正面に口をつけないというのは作った方への敬意で、480年続いている表千家の作家への感謝の表れです。お茶を通して、作り方に興味を持ち、「お菓子はどのの？」と関心を寄せる。私流の「おもてなし」とは、すべてのものに感謝するということです。今日の私と皆さんの出会い。またお点前をする時の次への自信となっていく。

「自分の心を師となす」どんなことも決めるのは自分。自分が師。決めるということは師。師になるために自分を磨く。ここで学習することも一つ。利休の言葉の中に、「その道に入らんとする心こそ我が身なり」というのがあります。自分で決めたことはやり遂げましょう。いろいろなことを吸収して経験して一生勉強を続け、「これをやりたいと思う気持ち」を強く持ち、自分が決める。決めるのは自分ということ。おもてなしとは、相手のことを分かちあえる。常に感謝の気持ちを持つことです。

<班別討議>

- ・講師が伝えたかったことについて班別討議
- ・班としてのまとめ・発表準備

「おもてなし」について、各班で交流し合い、自分の考えをまとめていった。

⑤ 活動の様子



11 第11回研修会（1年間の活動を振り返って、閉塾式）

(1) 日時：12月19日（土）18：30～20：30

(2) 場所：石巻専修大学2205教室

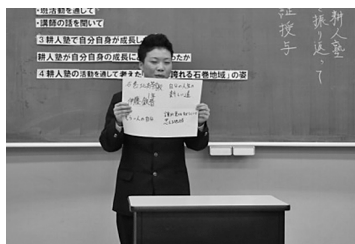
(3) 活動内容

① 開会の挨拶及び趣旨説明（木村塾長）

- ・講話：『人間という奇跡を生きる』
- ・丸山三枝子さまから百万円の寄付が耕人塾に寄付されたこと（新聞記事参照）と感謝の意味を込めて耕人塾から「感謝状・塾生からのお礼の手紙・修了式の写真・心ばかりの石巻の名産」を添えてお送りしたいとのことがあった。

② 第4期耕人塾を振り返って

講師の話聞いて耕人塾で得たもの、耕人塾が自分自身の成長にどうつながったか、耕人塾の活動を通して考えた「世界に誇れる石巻地域」の姿について、それぞれの考えをまとめて、班ごとに発表し合った。



【塾生の声 抜粋】

問1 耕人塾で得たもの。

- ・先生の話とか意味が分からないことを、自分で考え理解するように努め、友人に伝えたいと思うようになった。
- ・人間の可能性、夢、協力性、チャレンジ精神、感謝する心を学んだ。
- ・みんなと協力して成し遂げる達成感。

問2 耕人塾で自分自身が成長した点。

- ・人に任せるのではなく、自分から進んで行動すること。
- ・人の立場になって考えることができるようになった。
- ・視野が広がった。先を考える力がついた。
- ・考察力や考える力が伸びた。
- ・話し合いに自ら参加したり、自分の意見を述べたりすることができるようになった。

問3 耕人塾の活動を通して考えた「世界に誇れる石巻地域」の姿。

- ・人とのつながりを大切にし、礼儀・挨拶が素晴らしい心地よい街にしたい。
- ・ゴミが落ちていない綺麗さはもちろん一人ひとりがきれいな心を持つ地域にしたい。
- ・当たり前のことを極める。



Ⅵ 成果と課題

1 成果

- (1) 「世界に誇れる石巻にしよう」というテーマの下に、それぞれの班が創意工夫を凝らした多様な取り組みが見られた。また、試し活動の後で、中間発表を設けて、自分の班の取り組みを反省すると共に、他の班の取り組みの良いところを取り入れることによって、班ごとの実践活動がさらに充実したものになった。
- (2) 宿泊研修では、塾生の主体的な取り組みを重視した。その結果、「世界に誇れるあいさつ」や「班別の創作ダンス」では活発な取り組みが見られた。また、宿泊研修ならではの「座禅と礼法体験」をすることによって非日常を味わうことができた。
- (3) 「国際理解」では、石巻在住の3名の外国人によるパネルディスカッションを実施し、外国人から見た「日本食」「日本の風習」「日本の子供」についての意見から、新たな気づきにつながった。
- (4) 「日本の伝統文化」では茶道の体験から普段の生活では味わうことができない静寂な空気や美しい立ち居振る舞い、「おもてなしの心」などを味わうことができた。また、連続して参加している塾生にとっては、より深い体験となった。

2 課題

- (1) 前半は班ごとの活動が多かったため、参加人数が少なく、活動の盛り上がりには欠ける面があった。また、班担当の指導員の負担が大きく、連絡網などを工夫する必要がある。
- (2) 塾生の主体性を生かした活動を取り入れたが、話し合ったり深めたりする時間が取れず、達成感を味わうまでには至らなかった。次年度は、活動の内容を絞る必要があると感じた。

Ⅶ まとめ

第4期『耕人塾』では、前年度の反省を生かして、塾生の主体的な取り組みや班独自の活動を重視したことにより、班ごとの創意工夫を生かした活動や塾生の積極的な活動が見られ、塾生の成長という大きな成果を得て終了することができた。運営委員、指導委員、指導補助員、協力員の方々、物心両面で支えていただいた石巻専修大学に心から感謝したい。また、本年度から宮城県教育委員会、石巻市教育委員会、東松島市教育委員会、女川町教育委員会に後援をいただいたことが大きな心の支えになった。

東日本大震災から4年が経過したが、本当の復興のためには若い人材の育成が不可欠だと思っている。今後も工夫改善をしながら『耕人塾』をさらに充実させていきたいと考えている。ご協力いただいた多くの方々に感謝し、報告としたい。